

こんなことやってるよ



長野県希少野生動植物 保護回復事業のその後 ～ヤシャイノデ・タデスミレ～

長野県では、現在、県版レッドリストの改訂検討をすすめています。県版レッドリストに掲載された生物のうち、特に緊急な保護対策が必要なものについては、長野県希少野生動植物保護条例で希少野生動植物に指定し、保護回復事業計画を策定しています。計画策定後、順次、さまざまな取組が行われていますが、残念ながら、保護対策の進捗を十分にお伝えできていない面もあるのではないかと思います。そこで、保護回復事業のその後の様子について、今回は、計画策定の最初期、2006 年度・2007 年度に策定されたヤシャイノデとタデスミレからお伝えしようと思います。

① ヤシャイノデ（オシダ科）



図 1 保護柵内で成長したヤシャイノデの増殖株

中国・南アジアに分布し、日本では神奈川県・山梨県・長野県にのみ分布する常緑のシダ植物で、長野県では、飯田市と大鹿村の限られた場所に分布します。産地が局限されている上に、自生地では二ホンジカの採食圧が高いことが個体数減少や成熟阻害の要因と考えられています。そのため、保護回復事業計画では、植生保護柵の設置によるシカ採食からの保護と、生息域外保全対策として孢子からの保護増殖手法の検討が、取組事項とされました。その後、飯田市、大鹿村の自生地ともに植生保護柵の設置がすすめられたほか、保全団体（ヤシャイノデ保全の会）の皆さんの研究により、孢子からの人工増殖技術も確立され、その増殖個体は、生息域外保として 2014 年に自生地近傍に防護柵を設置し植栽されました。自生地のシカ採食圧は依然として高いですが、植栽された増殖株を 2025 年に確認したところ、植栽した株のほとんどが現存しており、中には葉長 50cm に達して孢子もつけている成熟株もみられました（図 1）。

中国・南アジアに分布し、日本では神奈川県・山梨県・長野県にのみ分布する常緑のシダ植物で、長野県では、飯田市と大鹿村の限られた場所に分布します。産地が局限されている上に、自生地では二ホンジカの採食圧が高いことが個体数減少や成熟阻害の要因と考えられています。そのため、保護回復事業計画では、植生保護柵の設置によるシカ採食からの保護と、生息域外保全対策として孢子からの保護増殖手法の検討が、取組事項とされました。その後、飯田市、大鹿村の自生地ともに植生保護柵の設置がすすめられたほか、保全団体（ヤシャイノデ保全の会）の皆さんの研究により、孢子からの人工増殖技術も確立され、その増殖個体は、生息域外保として 2014 年に自生地近傍に防護柵を設置し植栽されました。自生地のシカ採食圧は依然として高いですが、植栽された増殖株を 2025 年に確認したところ、植栽した株のほとんどが現存しており、中には葉長 50cm に達して孢子もつけている成熟株もみられました（図 1）。

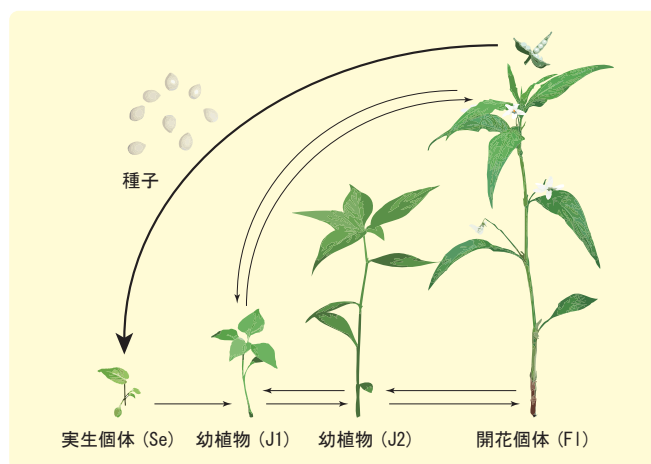


図 2 タデスミレの生活史段階

② タデスミレ（スミレ科）

朝鮮半島と日本の長野県のみに隔離分布する多年草でタデ類を思わせる葉と白色の花をつけます（図 2）、長野県では松本市と上田市に分布するとされてきましたが、上田市については、計画策定時やその後の調査でも確認できず、絶滅した可能性が高いと考えられます。保護回復事業計画では、ヤシャイノデと同じく、人工増殖技術の開発や自生地の管理などが取組事項とされましたが、その後の調査で、二ホンジカ採食による減少が喫緊の課題となったことから、2013 年に自生地に植生保護柵が緊急的に設置されました。種子からの発芽・育苗といった人工増殖技術も開発され、その増殖株は、生息域外保全として、軽井沢町植物園等に植栽されました。



図 3 軽井沢町植物園で系統保存されている松本市産のタデスミレ

2025 年に同植物園を訪れたところ、これらの株は健在で多数開花していました（図 3）。また、自生地では、地元の財産区の方々に監視活動を継続いただいています。タデスミレも、自生地のシカ採食圧は依然高いですが、2025 年に植生保護柵内の繁殖状況を確認したところ、新たな実生もあり世代更新が進んでいる様子を確認できました。

（尾関 雅章／自然環境部）